

## 1 社会・治安情勢

### (1) カラチ市

2013年9月以降、治安機関がパキスタン・タリバン運動（TTP）等のテロ集団を集中的に取り締まり、検挙及び銃器や爆発物等の押収を進め、大規模な爆弾テロ等の阻止を図っている（通称「カラチ掃討作戦」）ほか、2015年3月11日には、準軍部隊レンジャーが、シンド州を基盤とする政党「統一民族運動（MQM）」の本部を捜索し、大量の武器弾薬を押収、多数の重大事件被疑者を逮捕したことにより、凶悪犯罪が減少し、治安の回復が謳われている。しかしながら、同年5月13日、シーア派イスラム教徒の乗ったバスが武装集団に襲撃され、バス乗客等46人が殺害される事件が発生し、比較的警備の手薄な、いわゆる「ソフトターゲット」に対する攻撃の脅威が顕在することを示した。

また、2016年10月はイスラム暦1月（ムハッラム）に当たり、シーア派イスラム教徒に対する襲撃事件が多発した。このように、パキスタンでは依然として宗派間対立に基づくテロ事件が多発していることから、テロ事件に巻き込まれることのないよう、最新の情報に注意する必要がある。また、上記ムハッラムおよびイスラム暦9月（ラマダン）のように、宗教感情の高まる時期は、テロ事件が多発する傾向にあることから、普段以上に慎重な行動を心がけるようにしていただきたい。

### (2) バロチスタン州

10～12月も引き続き治安機関によるテロリスト掃討作戦が継続され、多くのテロリストの逮捕、投降等あるものの、宗教過激派や民族主義武装集団による異宗派、移民、治安機関等を対象とした標的殺人や爆弾テロ事件は依然多発している。10月には州都クエッタ市内の警察学校がテロリストに襲撃され、学生等61人が死亡する事件が発生した他、11月には、フズダル県の聖者廟で自爆テロが発生し、宗教舞踊の見学に集まっていた市民52人が死亡する事件が発生した。同州では、現在もバロチスタン州治安機関とテロ集団が臨戦状態にあり、治安情勢は極めて悪い。

## 2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

### (1) 犯罪統計

カラチ市警察が発表した10～12月の犯罪統計によれば、カラチ掃討作戦の成果により、殺人事件の発生件数は昨年同期より漸減しているものの、武器の不法所持件数は微減にとどまり、その他総犯罪発生件数、強盗、窃盗、強姦、薬物所持の発生件数はむしろ増加している。これは、同期間内に、治安機関の幹部の多くが一斉に交代したことにより、治安機関の指揮命令に間隙が生じたことによる一時的なものであり、徐々に治安は回復していくとの見方があるものの、依然として予断を許さない治安状況が続いている。主な犯罪種別の内訳は以下のとおり（カッコ内は前年同期）。

- ・ 総犯罪発生件数 9,185件（8,100件）

- ・ 殺人 113件 (134件)
- ・ 身代金目的誘拐 8件 (9件)
- ・ 強盗 695件 (662件)
- ・ 窃盗 1,461件 (1,345件)
- ・ 強姦 34件 (27件)
- ・ 薬物所持 914件 (812件)
- ・ 武器不法所持 1,291件 (1,302件)

(2) 邦人関連事案

発生なし。

3 主なテロ関連事案等

(1) シンド州・カラチ

ア 10月13日、レンジャーは、カラチ市ガダップ地区のテロリスト拠点を捜索し、テロリスト4人を殺害し、武器弾薬を押収した。

イ 10月17日、オートバイに乗った男たちが、カラチ市リヤカタバード地区所在のシーア派モスクに対しクラッカーを投擲し、シーア派教徒の少年1人を殺害し、女性と子供を含む21人を負傷させた。

ウ 10月24日、武装集団が、シンド州シカールプールのポリオ予防接種会場を襲撃し、同予防接種運動従事者の医療補助士1人が負傷した。

エ 10月27日、警察のテロ対策局（CTD）は、カラチ市コランギ地区のテロリスト拠点を捜索し、テロ集団「インド亜大陸のアル・カーイダ（AQIS）」構成員3人を殺害した。

オ 10月29日、オートバイに乗った者たちが、カラチ市リヤカタバード地区のシーア派教徒の集会を襲撃し、集会に参加していたシーア派教徒5人を殺害し、5人を負傷させた。

カ 11月7日、シーア派教徒が、同派指導者の逮捕に対する抗議デモを実施したところ、警官隊と衝突し、警察官2人が負傷した他、デモに参加していたシーア派教徒9人が負傷した。

キ 11月9日、レンジャーは、情報に基づきカラチ市ガダップ地区のテロリスト拠点を捜索し、テロリスト3人を殺害し、武器弾薬を押収した。レンジャー側も1人が負傷した。

ク 11月11日、警察は、カラチ市グルシャネ・イクバル地区のテロリスト拠点を捜索し、TTP構成員1人を殺害し、けん銃1丁および手榴弾数発を押収した。

(2) バロチスタン州

ア 10月4日、クエッタにおいて、オートバイに乗った者たちがバスに乗り込み、乗客の女性シーア派教徒4人を銃撃して殺害した。

- イ 10月7日、ボラン県において、クエッタ発ラーワルピンディー行きの列車が走行中、線路上で2度の爆発が発生し、列車乗客7人が死亡、24人が負傷した。テロ集団「バローチ解放軍（BLA）」が犯行声明を出した。
- ウ 10月14日、FCはクエッタ市内を捜索し、テロリスト2人を殺害、11人を逮捕し、ロケット砲、サブマシンガン、けん銃等の違法な武器を押収した。
- エ 10月20日、シビ県において、地元部族民が車両で移動中、路上に仕掛けられた地雷が爆発し、2人が死亡、9人が負傷した。
- オ 10月24日、テロリスト3人が、クエッタ市内の警察学校を襲撃し、学生等61人を殺害、122人が負傷した。テロリストはいずれも自爆ジャケットを着装し、2人は自爆、1人は辺境警備隊（FC）により射殺された。テロ集団「イラク・レバントのイスラム国（ISIL）」、「ラシュカレ・ジャングビ・アル・アラミ（LJA）」およびTTPが犯行声明を出した。
- カ 10月28日、FCは、テロリスト潜伏の情報に基づき、カラート県の山岳地帯に所在するテロリスト拠点3カ所を捜索し、テロリスト3人を殺害し、武器弾薬を押収した。
- キ 11月2日、FCは、テロリスト潜伏の情報に基づき、グワダル県を捜索し、テロリスト4人を殺害、1人を逮捕、大量の武器弾薬を押収した。この際、FC側も1人が負傷した。
- ク 11月5日、FCは情報に基づき、ボラン県の山岳地帯を捜索し、テロリスト3人を殺害した。
- ケ 11月11日、FC、シンド州レンジャーおよび警察は、情報に基づき、ラズベラ県の民家を捜索し、1時間におよぶ銃撃戦の末、テロ集団「ジュンドウツラー」の指導者を殺害し、手榴弾、小銃、ロケット砲等、大量の武器を押収した。
- コ 11月12日、フズダル県の聖者廟において、多くの人々が宗教舞踊を見学していたところ、自爆テロが発生し、52人が死亡、105人が負傷した。ISILが犯行声明を発出した。
- コ 11月26日、グワダル県において、武装集団が石油ガス調査団を襲撃し、警護に従事していた民間警備員2人を殺害した。テロ集団「バローチ解放戦線（BLF）」が犯行声明を出した。

#### 4 誘拐・脅迫事件発生状況

シンド州警察が発表した10～12月の犯罪統計によれば、カラチ市内における身代金目的誘拐は8件（前年同期9件）、身代金目的以外誘拐は360件（前年同期369件）、児童誘拐は20件（前年同期23件）発生し、誘拐を巡る状況は徐々にではあるが改善傾向にあるものの、いまだ高い発生率で推移していることから、引き続き十分な注意が必要である。邦人が被害となる誘拐事件は発生していないものの、テロ組

織が資金獲得のため犯行に及ぶ場合や、一般犯罪組織等が誘拐した被害者を金銭目的で売り渡す場合もある。在留邦人を含む外国人が誘拐された場合には、事件が長期化する可能性が高いことから、当地で生活する場合、誘拐犯などの犯罪者に隙を与えない日常行動が重要である。

## 5 日本企業の安全に関する諸問題

### (1) 渡航の際の留意事項

当地では現在、TTP等テロ集団による治安機関に対する報復に対して警戒を強めている状況にある上、比較的警備の手薄ないわゆる「ソフトターゲット」がテロの標的とされる傾向にある。よって、当地へ渡航される場合は、事前に報道等により最新の治安情報を確認するとともに、外務省ホームページに掲載されている渡航情報等を参考にし、渡航の是非を充分検討していただきたい。

### (2) 駐在される場合

当地ではテロの危険がある他、けん銃強盗等の路上犯罪も頻発しており、実際に在留邦人被害の強盗事件も発生している。また、テロ集団による営利を目的とした誘拐等の被害に遭う可能性も否定できないことから、当地に駐在される場合は、必ず外務省海外安全ホームページ掲載の各種安全対策資料や当館ホームページ掲載の「安全の手引き」等をご活用の上、十分な安全対策を講じていただきたい。

もし事件に巻き込まれた場合、在外公館と在留邦人が緊密に連携して情報を共有し、安全を確保する必要があることから、当館への連絡を徹底していただきたい。